

教職大学院生が小学校の学級会を参観&模擬学級会を実施

令和7年11月14日(金)、宮崎大学教育学研究科(教職大学院)1年生17名が「教科外活動の構成と展開・評価と課題」の授業の一環で宮崎市立青島小学校を訪問し、同校3年学級担任の谷口夢歩教諭(2021年度宮崎大学教職大学院修了)が行う学級活動(学級会)の授業「おいもどうする?」と、総合的な学習の時間「青島防災っ子」を参観させていただきました。

昨年度は、教育学部教職実践基礎コースの4年生が谷口教諭の学活と総合の授業を参観させていただきましたが、教職大学院生でも学級会の授業参観の経験がなく、具体的な指導のイメージが持てない院生が多かったため、本年度は大学院の講義の一環として実施しました。谷口教諭には、事前に大学にお越しいただき、これまで取り組んでこられた総合的な学習の時間と学級活動の実践について講話いただきました。

14日の学級会では、「おいもどうする?」という議題で、学級で育てたさつまいもをどのように調理して食べるのかを児童の司会進行のもと話し合い、「おいもスティック」「おいもチップス」「さつまいものはちみつバター風味」を作って食べることが決まりました。

17名の大学院生は、児童主体の話し合いの様子を真剣な表情でメモを取りながら参観し、授業後の協議では、谷口教諭に対して活発な質疑が行われました。

令和8年1月21日(水)に実施した「教科外活動の構成と展開・評価と課題」の講義最終回では、院生からの提案で模擬学級会を実施しました。「来年度も院生同士がつながり続ける方法を決めよう!」という議題で、司会・副司会・黒板書記・ノート記録に加え、先生役も設定し、小学校での学級会の流れを参考にした話し合いが行われました。最終決定には至りませんでした。司会進行の難しさや事前準備の重要性、多数決のあり方など、学級会を実際に体験したからこそ多くの学びがあったようです。

